



釧路湿原国立公園（釧路市）のゼロカーボンパーク登録

※令和4年7月14日時点

1. 釧路湿原国立公園

- 日本最大の湿原である釧路湿原を中心とした国立公園特別天然記念物のタンチョウをはじめ、貴重な動植物の生息地になっている
- 1980年には日本で最初のラムサール条約登録湿地となり、現在は自然再生事業が行われている
- カヌーツアーや湿原内の木道の散策等、釧路湿原ならではの環境を活用したエコツアーが行われている
- 釧路市は、令和3年2月にゼロカーボンシティを表明



広大な釧路湿原の中を蛇行する河川

2. ゼロカーボンパークに向けた取組

吸収源としての湿原及び森林の保全・再生の推進

- 国立公園で育成された種苗を、市街地における企業敷地において住民や企業と共同で植樹する「都市型森林再生事業」を実施
- 自然再生事業の普及啓発の取組であるワンダグリンダプロジェクト等と連携し、釧路湿原の炭素吸収効果等について積極的に発信



地域産種苗を企業敷地に植樹

< 釧路湿原の炭素吸収効果 >

CO₂吸収量：4.5万トン/年
約1.5万世帯の年間排出量に
匹敵

炭素貯留量：1,130万トン
単位面積ではスギ人工林の約
1.5倍に匹敵



釧路湿原国立公園（釧路市）のゼロカーボンパーク登録

※令和4年7月14日時点

リサイクルを通じた脱炭素社会の推進

- ・ ペットボトルのボトルtoボトルリサイクルについて、地域全体での取組を推進
- ・ 釧路市湿原展望台を中心に、釧路湿原の地下水を活用したマイボトルへの無償給水の推進することにより、プラスチックごみを削減

サステナブルな観光地の推進

- ・ 自然再生事業の一環として実施されている達古武湖でのヒシの刈り取りについて一般観光客等の再生事業への参加と合わせ、収益の一部を環境保全に活用するサステナブルなツーリズムの提供を民間と連携して推進

COOL CHOICEを旗印とした取組の普及啓発

- ・ 「ゼロカーボンパーク普及キャンペーン事業」として地元ガイド団体等と連携した自然観察会、湿原と脱炭素に係る取組を紹介するパネル展等を実施
- ・ 釧路市湿原展望台のレストランにおける生態系維持のために捕獲されたエゾシカを活用したメニューの提供により食を通じたサステナブルな観光を普及啓発

3. 環境省における対応

- ・ ゼロカーボンシティ支援に活用しているエネルギー対策特別会計予算及び自然公園等整備費等の既存予算をパッケージとして支援する他、釧路自然環境事務所が釧路市と連携をとりながら伴走支援を行い、脱炭素化の取組を後押し